

リリムジカ=心に響く音楽。読むだけで音楽レクと音楽療法の知識が身につく記事を毎月無料でお届けしています。

ふたりで鳴らしたクラベス

「この後は皆様に楽器をお配りします」ファシリテーター（以下FT）は、プログラムに同席していた職員の方と太鼓や鳴子などの楽器を配り始めました。職員さんが吉村さん（仮名・女性）の前に楽器を差し出すと、吉村さんは「私はいいわ、うまくできないから」とお断りされました。そのやりとりを、プログラムの見学に来ていた高田さん（仮名）が見ていました。FTはクラベス（拍子木のように2本の木片を打って鳴らす楽器。写真）を見学の高田さんに渡し、声をかけました。「もしよければ吉村さんと一緒にやっていただけませんか？」高田さんは、吉村さんにクラベスを1本だけ渡しました。「一緒にやってみませんか。これを持っていただくだけで大丈夫です。私が鳴らしてみますね」東京音頭のリズムに乗せて、高田さんは吉村さんの持つクラベスにもう片方を合わせます。すると、

だんだん吉村さんも手を動かされるようになりました。1曲終わった後、高田さんは笑顔をかべて「すごく楽しかったわ。ありがとう」とおっしゃいました。



読者からのQ&Aコーナー

歌詞指しのコツはありますか？③

前回、歌詞指しをするときはどの参加者からも見える位置に立つことが大事だと書きました。今回は歌詞を指す手の動きについて書きます。ときどき曲調にあわせて手の動きがゆっくりになったり跳ねたりする方がいらっやいます。元気な曲で跳ねたい気持ちはわかりますが、跳ねるとどこを指しているのかがわかりにくくなります。元気さは歌声や表情で出しましょう。それから、歌詞指しは歌うタイミングを合わせるのにも有効です。よく「だんだん歌っている場所がずれていってしまう」という悩みを聞きます（星影のワルツなど）。歌い出しを待っていただきたいときは、指す手を直前の箇所にとめておき、歌いだすタイミングで次に進むとそろいやすいです。一度お試しください。

うさ子の奮闘記 第16話
「うれしいとき」
作：うめ子



帰宅後

